

令和6年2月15日（木）
川西北小学校 学校運営協議会
＜2月学校だより掲載分＞

学校評価アンケートについて（結果と考察）

「あてはまる」「だいたいあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の4択のうち、前者2つを「肯定的な答え」としています。また、保護者アンケートにおきましては、今回「わからない」を設定しましたので、(数字)は、「わからない」を全体に含めた場合の割合を表しています。

【児童アンケートの結果及び考察について】

児童アンケート集計結果				
		今年	昨年	一昨年
1	チャイムがなったときには、教室の席に座れていますか。	91	91	89
2	そうじをがんばってしていますか。	96	94	96
3	あいさつやていねいな言葉で話していますか。	84	83	81
4	先生や友達の話をしっかり聞いていますか。	93	92	94
5	学校の勉強はよくわかりますか。	89	90	89
6	授業中、一生懸命がんばっていますか。	92	90	93
7	宿題や家での勉強はきちんとしていますか。	93	90	93
8	学校は、楽しいと思いますか。	90	-	-
9	同じ学年ではない友だちとも遊んだりふれあったりしていますか。	79	76	73
10	相手の気持ちを考えて話したり、行動したりしていますか。	89	88	87
11	がんばったこと努力したことを認めてもらっていますか。	90	90	86
12	健康を考えた食事のとり方をしていますか。	87	-	-
13	学校のきまりを守って生活していますか。	94	91	91
14	体育の時間や休み時間に進んで運動し、体力づくりをしていますか。	82	84	83
15	安全に気をつけながら、学校生活や登下校できていますか。	96	94	93

(考察)

今年度も、およそ80%～95%を超える割合での肯定的意見が多くを占め、全体的には良好な結果となりました。特に、②と⑬と⑮の肯定的意見が95%程度であるように、基本的な生活習慣が身につく、自立・自律し良好な学校生活であることがわかります。また、⑨と⑩は90%には及びませんが、上昇傾向で推移しており、相手のことを思いやりながら、みんなで協力して活動しようとする主体性と協調性が、少しずつ子どもたちに育まれているのではないかと考えます。

また、⑧と⑪は、先生や友達とのかかわりによる内容になりますが、どちらも肯定的意見が90%前後で推移しており、学校が楽しく、教師と子どもとの関係も良好であることがうかがえます。⑧は、今年度より質問項目に加えました。肯定的意見が90%以上ではありますが、反面10%の否定的意見の児童がいることをしっかりと受け止め、一人ひとりの児童を大切にしたい学級経営と、学年担当教員を中心とした多面的・多角的なアセスメントによる児童理解により、楽しくないという割合を減らしつつ、多くの児童が⑧「学校に行くのが楽しい」と思える学校を目指します。

④⑤⑥⑦の学習面における質問ですが、④「先生や友達の話をしっかり聞いている」⑤「勉強が分かる」⑥「授業に一生懸命に取り組んでいる」⑦「宿題をきちんとしている」が、90%程度の良好な状況である結果でした。今後も、主体的・対話的で深い学びを実現する授業環境をめざし、子どもたちが「できる・わかる」と実感でき、自信をもって自己表現ができるよう、個々の意見により練り上げる授業づくりやどの子も認め合う学級の雰囲気づくりに取り組んでいきたいと思いをします。

続いて、②「挨拶やていねいな言葉で」と⑭「運動・体力づくり」については、否定的意見が15%前後で推移していることがわかりました。マスク着用の影響も考えられますが、挨拶や丁寧な言葉遣いは、よりよい人間関係を築く基本であり、本校の生活のめあてでもあります。子どもたちには、挨拶や言葉遣いの重要性を理解させ、お互いに「挨拶と良好なコミュニケーション」ができるように、今後も指導を継続していきたいと思いをします。また、生きる力として、⑫食事と⑭体力づくりは最も重要な要素の一つです。小学生低学年のうちから健康づくりが習慣づけられるよう、食育や保健教育、及び、体育の授業を核として、日常生活にもつなげられるよう指導を工夫してまいります。

【保護者アンケートの結果及び考察について】

	項目	今年	昨年	一昨年
1	お子さまは、楽しく学校生活をおくっている。	94 (94)	97	98
2	お子さまは、「授業が分かりやすい。」と言っている。	84 (78)	84	84
3	お子さまは、意欲的に学校での授業に取り組んでいる。	88 (86)	89	88
4	お子さまは、自分の考えを持ち、分かりやすく伝える力をつけている。	67 (67)	73	76
5	お子さまは、家庭学習や読書の習慣が身についている。	60 (60)	66	72
6	お子さまは、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が身についている。	80 (80)	79	86
7	お子さまは、あいさつや思いやりのある行動ができる。	88 (88)	89	87
8	お子さまは、学校や社会のルールやマナーを守って生活している。	95 (95)	95	97
9	学校は、子どもたち一人ひとりを大切にし、よく理解している。	88 (84)	90	92
10	学校は、子どものまちがった行動を、きちんと指導している。	87 (79)	87	91
11	学校は、子どものことについての相談に、適切に対応している。	88 (79)	87	92
12	学校は、基礎・基本の学力の定着に向けた授業を行っている。	92 (85)	91	92
13	学校は、体力づくりや食育など健康の保持増進について、子どもたちを指導している。	96 (85)	87	87
14	学校は、便りやホームページなどで教育活動をわかりやすく伝えている。	93 (91)	95	93
15	学校は、教育活動を保護者や地域に積極的に公開している。	91 (84)	89	86
16	学校は、校舎内外が清掃され、適切に学習環境を整えている。	92 (85)	92	92
17	学校は、子どもの安全や健康に配慮している。	93 (88)	94	94
18	学校は、いじめのない学校づくりに取り組んでいる。	90 (67)	83	87
19	家庭の中の仕事で、子どもに任せているものがある。	58 (58)	-	-
20	家庭では、学校や学年、学級からの連絡に目を通してしている。	97 (96)	-	-
21	家庭では、子どもの学習用具がそろっているか気にかけている。	92 (92)	-	-
22	子どもの友だちや遊び場所を知っている。	94 (94)	-	-
23	何か起こったとき、安心して子どもを預けられる人が近くにいる。	70 (70)	-	-

※注) (数字) は、「E：わからない」を全体に含めた場合の肯定的意見の割合です。

(考察)

今年度、「E: わからない」の選択肢を加えたことにより、経年で比較するのは難しいのですが、結果数値にはっきりと変化が表れた項目もございました。今後は、(数字)を、経年比較対象としてまいります。①「楽しく学校生活を」は、いずれも高い数値の結果が出ており、学習や授業への取り組み②③⑫においても同様、引き続き子どもたちへの細やかな対応と指導を継続してまいります。また、⑧「ルールやマナーを守る」生活面においても高評価の結果でした。

一方、④「自分の考えを持ち、わかりやすく伝える」⑤「家庭学習や読書の習慣」につきましてはここ数年における課題ととらえ、正しい言葉遣いをすることも含め、子どもたちのコミュニケーション能力の向上にむけ、対話的な授業の創造と日頃からの生活指導を充実させていきます。職員研修の内容においても、「友達の考えや発言を認め、自分の考えを深め、そして、伝える」という思考力と表現力の向上を重要視して取り組んでいるところです。

さらに、⑩⑪と⑬「いじめのない学校づくり」では、「E.わからない」の表記追加により、数値に昨年度までとは大きな違いがあらわれました。子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、学級指導や個々の教育相談において自分たちの言動を振り返らせるとともに、いじめにつながるっていないかも注視し、今後も子ども同士や子どもと教師及び周囲の人との良好な人間関係の構築に努めていきたいと思っております。また、学級懇談会や個人懇談会等、情報共有や相談できる機会を有効に活用し、連携を深めてまいります。

⑭～⑲の項目については、保護者の自己評価(家庭生活に関して)となります。特に、⑳「学校からの連絡に目を通す」㉑「子どもの学習道具がそろっているか」㉒「子どもの友だちや遊び場所を知っている」の肯定的意見が非常に高く、子育てや教育活動への意識の高さがうかがえました。今後ともご協力の程、よろしくお祈りいたします。㉓「何か起こったとき、安心して子どもを預けられる人が近くにいる」が70%と、緊急時の安全管理上、判断に迷う数値でした。行政や民間の施策を利用する以外にも、子ども同士の間関係の構築や広がりに応じ、家庭同士等保護者のみなさまもお互い何らかの形でつながっていただく手段も今後必要になるのかもしれない。

ところで、⑲「家庭の中の仕事で、子どもに任せているものがある」項目ですが、60%に届きませんでした。子どもたちの自主性や責任感、自己有用感を育てるためにも、教育課程との連携を含め、もっと肯定的意見が増えるよう働きかけたいと思っております。

これらアンケートの結果をみなさまと共有し、子どもたちの健やかな成長を目指し、今後もこの状況が維持改善できるよう学校全体で努力をしてまいります。

本校の校区である「川北地区」では、ここ数年が、統計上最も多い児童数という状況であり、ますます活気のある学校となります。その反面、人々の価値観も多様化しており、教育や子育てにおける課題も多様化してくるのではないかと考えます。その環境下においては、まず、人と人がつながり、お互いを理解し、課題を共有し合うことが大切なのではないでしょうか。

今回、昨年度を1%上回る57%のご家庭からご協力をいただきました。この児童・保護者アンケートの結果を基にして、学校における「教育活動の質」の更なる向上を図ると共に、家庭・地域とも連携し「子ども同士・保護者同士の横のつながり」を深め、学校と家庭が協働して取り組む「共育」を着実に進めていきたいと考えます。